

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 中田耕治 編集責任者 畠山広幸 制作・編集 33期広報委員会 印刷所 東京印刷機

4月例会開催！！ 平成20年4月12日（土） 12：00～15：00 於：米子児童文化センター及び湊山公園

～パイレーツ・オブ・ナカウミ～

今年のレクリエーション例会は『パイレーツ オブ ナカウミ』～Pirate of the Nakaumi～と題し、会員家族をむかえて中海を遊覧船で短い時間ながらも楽しんだ。まずは会員だけを乗せて「はくちょう号」は港を出た。船内ではウエダトシヲ先

生の紙芝居で中央会ネタを惜しみなく披露された。一度帰港して今度は家族を連れた会員を乗せて出港し、紙芝居(子供用)、海賊に扮した福田直前会長(日南ジョニー)退治と、子供たちも満足だったのではなかろうか。(奥様方はどうでしたか?)



12時より米子児童文化センターに移動し例会が行われ、会長挨拶の後、新入会員の門脇弘樹会員にバッチ授与された。花見会場に場所をうつして昼間からみんなで乾杯。前日からの場所取り隊のおかげで、絶好の花見ポイント。時折ひらひらと舞う桜の花びらも酒のつまみになった。子供達と一緒に委員会対抗の綱引き、地域ビジョン委員会の持ち込み企画、白ネギを使った料理対決など、大いに盛り上がった。持ち込み企画だったのに最下位になった地域ビジョン委員会メンバーの罰ゲーム姿は後世に語り継がれるだろう……か？。

中央会活動のなかで普段家族との会話、ふれあいなどを取れない会員も多いとおもう。(逆に取ってもらえない場合もあるが。。)レクリエーション例会は家族サービスの機会がなかなか取れない会員にとって、とても重要な例会だと私はおもう。(個人的には、このレクリエーション例会が無いと後々にひびいてくる気が……。)

記事：安岡



中央会特殊工作員 CSA



平成19年度鳥取県中小企業青年中央会経営研修会

日時：平成20年4月23日（水） 16:00～
会場：ホテルモナーク鳥取

今年度経営研修会は、SC鳥取取締役社長 塚野真樹氏を講師にお迎えし『チームワークの大切さについて』というテーマでご講演いただいた。

塚野社長は、「チームワークとは何か？」と参加者全員に問いかけるように始められた。チームワークと言えばよく日本人は、仲良くとか相手の立場になって考えるなどといった意味と結びつけがちである。しかし本来は「ある目的、目標を達成するために、一人一人がその目的や目標をしっかりと認識した上で、それぞれ個人の役割や責任をまっとうすることである」と述べられた。

ではSC鳥取における達成すべき目的とは何か？それは「クラブスピリッツを表現し、地域の人々と感動を共有する。クラブスピリッツ

を次世代に継承する。」ことである。そしてその根源として据えているのが『ガイナレト魂』といわれる「自信・オープンマインド・全カ・フェア・敬意・感謝・向上心・切磋琢磨・創意工夫・挑戦」である。この十の魂は塚野氏が社長就任時に考えられたものであり、これがガイナレトのチームらしさ、クラブスピリッツとなっている。

講演の最後、塚野氏は『チームワーク』についての総括として、「人間というのは完全にお互いを理解し合えなくとも何かをやっているものである。そして、それぞれに違いがあるからこそ個性が生まれ、役割が生まれる。この前提に立ったときが本当のチームワークの始まりである。」と締めくくられた。

記事：生田

OB訪問

25期卒会 柴野 清OB

今年年間行事の中でも大きなウエイトを占めている全日本トライアスロン皆生大会への協力。今回のOB訪問は西部青年中央会が全面的にボランティアに参加するきっかけとなった柴野清OBにお話を伺います。



早速ですが、西部青年中央会に入会しようとしたきっかけからお話してください

昭和57年28歳で入会しました。足立延愛OBに勧められ何かよくわからないまま、諸先輩方に命じられたことをこなし、忙ししていたことが記憶に残っています。

これまで個人的な応援のみにとどまっていたのが、組織的応援に変わったときいています

最初の出場からたくさんの方々に応援はしていただきましたが、第6回大会のときでしょうか、和田OB（第12期会長）の音頭取りでマイクロバスで伴走しての応援には驚きました。自転車を懸命にこいでいる横で、真っ赤な顔をして大きな声援を送っていただきました。ただよくみるとビール片手に楽しそうな雰囲気だったので、おそらく大きな声をだして顔が真っ赤になったのではなく、アルコールのせいだったのではと思っています。（この第6大会の応援をきっかけに、以後鳥取県西部青年中央会は団体ボランティアとしてトライアスロンをバックアップするようになり現在の協力体制となりました。中央会とトライアスロンの創世記のできごとである。）

最後になりましたが、現役会員にメッセージをいただけますか

トライアスロンのボランティアで顔に汗を流している姿を見るにつけ、感謝の念で一杯です。ロング大会は本州では唯一の大会となりました。鉄人の故郷がなくならないためにも、これからも皆さんのご協力をお願いしたいと思っています。また景気が大変低迷しており、特に地元は「層悪」の時期です。こういう時こそ会員相互の協力と知恵を出し合って乗り切ってください。

柴野OBといえばトライアスロンというイメージがありますが、そのあたりのことをお話してください

印象深いのは中央会に限って言えば、私がトライアスロンに出場した最初の会員であるということ（第4回大会）、第10回大会で10位に入ったことです。当時の岩坂会長（故人）を始め会員の皆さんに喜んでいただいたことは一番の思い出といってもよいでしょう。また未だに会員最高順位の記録が破られていないのは、ちょっとですが誇らしい気持ちです。その当時は自転車で大山寺を1日に2往復していました。今考えるとぞっとします。

だいぶ体型が変わられましたね

不摂生ばかりで体重が増え続け、何とかしなければと思いつつあれこれ運動を試してみましたが、なかなか効果が現れない。もう一度トライアスロンに挑戦しちゃおうかなーと思ったりしています。

柴野OBとは業界の研修旅行などで一緒する機会が何度かありましたが、そこでのエピソードを2つばかりご紹介させていただきます。

山口県に行った際、別行動でいらしたOBの手には自転車が……。どうされたんですか？その自転車という問いに、「決まってるがな。婦りは自転車だがな」と言い放ち、こどもなげに300kmを走破した柴野OB。沖縄で青い海をホテルのバルコニーから眺めていると、波打ち際でリゾートしている観光客とはあきらかに違う人種を発見。水平線に沿うように泳ぎ出した彼のフォームはどことなく見慣れたものだった。そう柴野OB。やはりどこにいても鉄人の血が騒ぐのでしょうか？それとも単なる〇〇なのでしょうか？更にはまたトライアスロンに挑戦するかもとおっしゃる。いくつになられても「燃るべし！サビチビッチィ」でありました。

*サビチビッチィ ハンサムバックナンパー「中央会今昔物語」をHPで探して読んでみてください。記事：中島

今月の一枚



今月の1枚ということで、学生時代の写真について書かせていただきます。

私が20歳の頃、スノーボードが流行り始めた頃でした。その当時はまだスキー場によっては、スノー禁止もしくは、コースが区別され、スキーとスノーボーが分かれていた頃でした。

毎週金曜日早朝にスキー場へ出かけ、夕方4時位まで滑っていました。私は、積雪のある地の出身で無い為、人生で初めて積もった雪を見たのがスキー場であったのでとても感動したのを覚えています。

現在はと山陰で、冬になると積雪のある山陰です。あえて雪山にまで行って雪を見に行くことは無くなりました。

流行を追っていた若き日の思い出の1枚でした。

大岡康臣会員

委員会活動 地域ビジョン&魅力アクション

4月6日(日)地域ビジョン委員会と魅力アクション委員会の合同委員会が、智頭町にて行われました。

朝9時にバスで米子を出発し、智頭町まで約2時間ドライブ、桜が満開の景色を車窓から見ながら山奥にある「みたき園」に着きました。

到着後、各委員会が行われ、続いて名物山菜料理をいただきながら主である寺谷様よりお話を伺いました。自然の恵み、山の恵みをたっぷりいただいて、素朴だけれど手間ひまかけた手作りの山菜料理を囲炉裏端でいただきました。お話の要約として、「ここでは鹿の鳴き声で目が覚め、葉釜でご飯を炊き、季節の山菜を採って料理されています。そんな自然豊かな場所ですが、山の上では森が荒れてきています。そのため食べ

物が無くなり、熊が人里に下りてきますが、住民は通報しません。なぜなら人が危害を加えない限り熊が人を襲うことはないのです。人間が森を守れば、熊が人里に下りてくることは無くなり、自然と美しい水を守るようになります。

便利な世の中になっていますが、自然を守るために、人間が環境を守る努力をし、森と動物の人間が共存して行くことが大切です。」ということをお話されました。その後、自然いっばいの園内を散策し、参加者一同心からリフレッシュしました。

寺谷様はじめ園の方々に見送られながら、みたき園を後にし、智頭宿で有名な石谷家住宅に向いました。見上げれば巨木の梁組み、大黒柱の輝き近世から近代への建築技術の推移を示す貴重な歴史的建造物を見

学しました。

最後に地元で有名な諏訪酒造に立ち寄り、各々試飲して気に入った酒を購入し、帰路に着きました。自然と環境問題について真剣に考えておられる智頭町の人々を参考に、我々もひとりひとり、自分の出来る小さなことからアクションを起こしていかなければならないとおもいました。



中央会アーカイブス

全ては私が県出向だった平成18年のある日、一本の留守電から始まった。

「一徳か、K田です。えー・・・超画期的大発明をしました。至急、連絡下さい。ガチャッ、プープー」私は全く思い当たる節が無く、しかし気になったので早速自宅を尋ねてみた。「おー来たか。まあ、座れや。」そして、おもむろに絵を描き出した。「こんなやつ作ってみらいや」

それは車いすを利用する人が簡単に車に乗り入れることが出来る装置が付いた福祉車両であった。☺「何ですか、これ」☺「昨日話しとったやつだがな」私は驚いた。(そういえば昨日、県出向同士の酒の席でU田さんと3人でそういう話しをしていたな。まさか昨日の今日とはな。展開早っ!)☺「どうやって作るんですか」☺「お前のところで作れるだろうが」☺「でも図面とか無いですけど」☺「わし書いちゃーがな」☺「でも、改造しているから登録とか難しそうですね」☺「えーけん、作ってみらいや」

このような調子でプロジェクトが進みだした。進みだしたら、電話が一日に何度もかかってくる。「どげなっとかいいな」「あー、そこはな、こげやっからちよんちよんと穴開けてしまえや」「商品名決めたけんな。セカンドライフ!!えー名前だろ」全てがこの調子である。

以下は平成18年3月から12月の約10ヶ月の間に基本的に3人で行ったものである。

センターサークルの主な活動

- ・試作機の製作(合計4台)
- ・軽自動車検査協会で持ち込んで登録(合計4台)
- ・特許出願、審査請求
- ・有限責任事業組合設立
- ・米子信用金庫から融資を受ける(地域活性化ファンド・チャレンジ21 第1号)
- ・中海テレビへCM放映(放映用の映像はほぼこちらが製作)
- ・パンフレット作成(ほとんど中央会メンバーで作成)
- ・取り扱い説明書作成、取り扱い説明ビデオ作成
- ・鳥取県主催のものづくりフェアへ出展 など

今思えば3人もも本業を抱えながら短期間によくこなせたものである。利益は今のところ生めていないが、お金以上の利益が得られたというのが実感である。と、過去の話のようだがプロジェクトは継続していて、当然ながら販売もしているので興味がある方はセンターサークル有限責任事業組合までお電話下さい。(0859-28-7050)

そうして、2年が経ったある日。

「一徳か、K田です。これからはペットだぞ。」これだから日が暮せないのである。

渡辺一徳会員

Creative&Action

「Creative&Action」について

永田健治会員

私にとってのCreative&Actionを委員会での活動を通してコメントします。今年度の環境問題委員会の活動でクリエイティブな成果を出すということでメンバー全員が分担を決めてアクションしています。私の役割は棚田、源流を取材するというので小椋委員長と大山周辺を歩きました。農家がお客様の私は、普段仕事でみなれた風景が、委員会活動を通して接すると何気なく過ごしていた水田やまわりの風景が新鮮に見えて、当たり前そこに川や景色は初めて見たような気になりました。また、疑問が湧いたり、不思議におもったり、今までと違う見方をしている自分に気がつき、荒廃した水田、汚れた川、源流の水の冷たさは今まで以上に印象深く感じる事ができました。生きる為山を削り、川を動かし水田を作り、稲を植えて繁栄してきたのが農家ですが、逆に自然破壊して絶滅した種類もあるんだあと考えさせられます。【Creative&Action】とは今までと同じ物の見方や考え方をしているは何も起こらない。創造力をもって行動する、何かを変えていこう、新しく挑戦しよう、そんなやる気を与えてくれるように感じました。川や水田に行っただけで仰々しいのですが、そんなエネルギーを与えてくれるのも中央会の素晴らしいところだとおもいます。



こだわりの逸品



原稿依頼を受けたのはいいが、私のこだわりの逸品って何？家の中にあるものを懸命に思い出してみる。全くもって頭に浮かばない。元来、物事にこだわりを持たない質だとおもう。でも全くこだわらないかと聞かれれば、「これと決めたことにはメチャメチャこだわります！」と答えるだろう。例えば、いつも身に付けているシャワーコロンがそうだ。

ヴェルサーチの「ベイビーローズジーンズ」。使い始めてから15年以上は経つ。その間、他の香水に心奪われることなく、今も私を虜にさせているシャワーコロンだ。付け忘れた日などは心ここに在らず、落ち着きがなくなり仕事に集中できない。一種の麻痺効果があるのでは？と疑ってしまう。また、ケースは缶でできている、色はピンクがベースでデザインも可愛く、ペン立てや貯金箱として我が家や職場で大活躍である。しかし難を言えば、私を虜にさせるのではなく、周りの人を虜にさせるような香りであれば今頃は…などと思わなくもない(笑)。

そんなベイビーローズジーンズの香りを堪能されたい方は、例会時でも私の周りへどうぞ。万が一、加齢臭のほうきぎつかった場合はご勘弁のほどを…。

桶村清子会員

中央会の思い出

木下 勝会員



入会年度のOB交流会でのアトラクション「ウォーターボーイズ」での出来事を紹介します。

当日競泳用の海パンが支給され、公園のトイレ(一応公共の場です)で着替え、海パン一枚で出番待ちをしている時に、一般の人からは「怪しげな集団」として映ったのでしょうか苦情を受けました(なかなかこんな経験はないですね)。

あれから5年、あの海パンは、どこにいったのか？でも「そんなの関係ねえ！」ということでお開きに致します。

野球部活動

～第1回 中田耕治杯～

日：4月21日（月）
於：米子市民球場

『春は中田耕治杯から…』境港JCとの本年初の交流戦が行われた。昨年の対戦では取れている相手であり、試合開始1時間前より各自での入念なウォーミングアップと開始前のミーティングを行なった。試合開始前、福田監督は『今回は絶対に負けない！勝ちに行くぞ！』又、北口主将も、『全員野球で勝利するぞ！』と選手全員の気持ちを再度引き締めた。この日は、中田会長もベンチより観戦されることもあり、中央会選手は全員大会のような面

持ちで試合に臨んだ。試合は、初回に3点・中盤4点・終盤1点を効果的に得点した中央会が境港JCを8-5で下して見事に勝利した。

試合後は境港JCとの交流会も兼ねた祝勝会が行なわれ、中田会長より優勝カップが福田監督に授与された。今後は年2回定期交流戦を実施することが決まっており、今後も野球だけではなく地域経済団体としてお互いに協力していこうと意見交換を行った。

記事：勝田



おもひでの一言

A word of a memory

野口浩一 会員

私の思い出の一言は「気を配る」である。広辞苑第四版によると「手落ちがないよう、いろいろなことに注意する。配慮する。気を使う。」という意味である。

高校時代、野球部の監督が「気を配れ」といつも我々選手に言っていた。野球とは直接関係のない言葉である。

例えば、白チームの攻撃が3アウトでチェンジになった時、塁上に残っていたランナー及びバッターランナーは守備に就かなければならないが、その際ベンチから誰かが気を配らせて彼らのグラブと帽子を持って行ってやらなければ、一度ベンチに帰ってから守備位置に就くことになってしまい守備の準備が遅れてしまう。

このようなことを抜き取りなくやれという意味で、監督は「気を配れ」といつも言っていた。そして、「これはお前たちが社会人になってからも必要なことだ」とも言っていた。

私も社会人となり、「気を配る」ことの大切さを改めて実感している。

この言葉を忘れずに、いつも周囲に「気を配る」ことのできる人間になりたいとおもっている。

4月度委員会報告

会員力委員会

平成20年4月8日(火) 於：米子ニューアーバンホテル 出席者/ 11名
議題/ ・4月担当例会について
・会員拡大について
・新入会員オリエンテーションについて

地域ビジョン委員会

平成20年4月6日(日) 於：智頭町視察 智頭宿みたき園 出席者/ 10名
議題/ ・5月担当例会について
・智頭宿みたき園視察
ご馳走の精神・おもてなしの心について寺田氏に学ぶ
・石谷家視察

環境問題委員会

平成20年4月4日(金) 於：レストランぶどうの木 出席者/ 12名
議題/ ・環境問題委員会「リーフレット」の作成について
割付・記事内容の説明・班割り・担当確認
スケジュール確認

ビジネス委員会

平成20年4月3日(木) 於：米子ニューアーバンホテル 出席者/ 10名
議題/ ・外部講師講演 講師：如水有限会社 西村金治社長
・演題 「接客ビジネスについて」
合同勉強会反省

魅力アクション委員会

平成20年4月6日(日) 於：智頭町視察 智頭宿みたき園他 出席者/ 5名
議題/ ・智頭宿みたき園視察
「森と水」について寺田氏に学ぶ
・石谷家視察

政治行政委員会

平成20年4月10日(木) 於：味空間こうりん坊 出席者/ 9名
議題/ ・高校生決起大会打ち合わせについて

広報委員会

平成20年4月8日(火) 於：大連 出席者/ 12名
議題/ ・ハンサムについて 紙面割付、各担当分担
・IIPについて
・委員会報告書・卒会寄稿文集について
・6月担当例会について

総務委員会

平成20年4月9日(水) 於：米子ニューアーバンホテル 出席者/ 9名
議題/ ・内部書類の整理ならびに通年行事のマニュアル化について

5月役員会報告

3月定例役員会が平成20年5月1日(木)、米子食品会館にて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・4月例会の反省・報告の件
- ・5月例会開催の件
- ・その他

※なお、詳細については各委員長までご参照ください。

5月例会案内

と き：平成20年5月17日(土) 18:30～ 閉会
と ころ：ふれあいの里
内 容：ACTION THE FOOD!! ～「食」で地域活性化～
講 師：日生かきお研究会 会長 江端恭臣氏
担 当：地域ビジョン委員会

編集後記

テレビドラマを見なくなって久しいが、この前子供が録画してまで見ていた「砂時計」の再放送を何気なく見てみたら…はまった(笑)

お隣島根と東京が舞台で、聞いたことのあるような方言や見たことのある風景が出てくれば見ないわけにはいけなくなってしまう青春ドラマである。

あの頃の淡い青春時代はよかったなぁと懐かしんで“うるうる”しながら見ている私は十分「おやじ」です(哀)

映画も上映されているが、見に行きたいなぁ…

店報委員会



平成20年4月(特選) 入会
(推薦者) 手島(武)
長田(賢)

門 脇 弘 樹

有限会社 冥質石材店

石材加工 販売

〒689-4503 日野郡日野町根雨848番地2

TEL. 0859-75-2156 FAX 0859-75-3378

(KT) 090-8999-0363

(EM)

S47.1.26生

〈コメント〉日野郡日野町根雨で石屋をやっています。主な業務は、墓石の文字彫りや建立ですが、石像・石仏・記念碑・狛犬・鳥居・庭灯籠なども取り扱っています。あと、日野町には金持神社と言う所があり、その売店に、石の置物などを卸しています。現在、現場の仕事が中心です。

これから経営の勉強もしていこうとおもっていたところ、推薦者である、いこの手島武司会員から鳥取県西部中小企業青年中央会の話聞き会をさせていただくことになりました。

諸先輩方に顔と名前を覚えてもらえるよう努力し、いろいろと勉強させていただき、仕事に活かしていきたいとおもいます。どうぞ、よろしく願っています。

新入会員

《コピーをして名簿にお貼りください》